

## 第16回教育実践研究講座

### Essential Questions 本質的な問い

教科書にはたくさんの問いが出てきます。それらの「質」は一体どうなのでしょう。ここに出版年が25年の開きがある2冊の教科書があります。みなさんも小学校4年生の時に読まれたであろう「ごんぎつね」を例に様々な観点から調べてみましょう。

光村図書 国語四下 昭和60年3月検定済教科書

「ごんぎつね」 新美南吉  
物語の後に2ページに渡って質問等が続きます。

ごんと兵十の気持ち

1から5までの場面で、ごんのしたこと・見たこと・思ったことはどんなことでしょうか。それぞれの場面を通して、ごんの気持ちがどう動いていったか、読み取りましょう。

また、6の場面で、兵十は、どんなことを知り、どんなことを思ったでしょうか。兵十の三つの会話のちがいを考えて、兵十の気持ちのうつり変わりを読み取りましょう。

生き生きとした書き表し方

- ・ 空はからっと晴れていて、もずの音がキンキンひびいていました。
- ・ 辺りのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。

右の文の様子を思いうかべて、そのときごんがどんな気持ちだったか、考えてみましょう。このほかにも、様子が生き生きと書かれているところを書き出して、同じように考えてみましょう。

「思う」と「考える」

- ・ ごんは、「ふふん、村に何かあるんだな。」と思いました。「なんだろう、秋祭りかな。祭りなら、たいこやふえの音がしそうなものだ。それに第一、お宮にのぼりが立つはずだが。」こんなことを考えながらやってきますと、

ふと心にうかんだという場合は「思う」、あれこれとすじ道を立て、頭をはたらかせる場合は「考える」と使い分けて、ごんの心の動きを書き表しています。

「思う」はほかにも何回も使われていますが、「考える」は、ほかに2の場面で一回使われているだけです。そのわけを考えて、ノートに書きましょう。

## 光村図書 国語四下 平成22年3月検定済教科書

「ごんぎつね」 新美南吉

物語の後に4ページに渡って質問等が続きます。

物語をめぐって話し合おう

黒田さんのクラスでは、「ごんぎつね」を読んだ後、感じたことを出し合いました。

- ・「ごん」が「兵十」に火なわじゅうでうたれたのが、かわいそうだと思った。
- ・「ごん」をうつなんて、「兵十」はひどいと思う。
- ・「ごん」のつぐないの気持ちは、「兵十」に届いたのだろうか。

感じ方が別れたり、ぎもんが出たりしたので、場面ごとの人物の行動や気持ちのうつり変わりをくわしく読んでから、あらためて話し合うことにしました。

みなさんも、くわしく読んで、感じたことや考えたことを話し合いましょう。

1 くわしく読みましょう。

- 場面ごとに、「ごん」と「兵十」の行動や気持ちについて考えましょう。
- 次のことについてノートに書きましょう。
  - ・「ごん」と「兵十」は、それぞれどんな人物か。
  - ・「ごん」と「兵十」の関係は、どのように変化したか。

2 くわしく読んだことをもとに、感じたことや考えたことを話し合いましょう。

<話し合う前に>

① 感想を百字ぐらいでまとめる。

- ・くわしく読んでわかったことから
- ・同じ作者の別の作品や、似た題材の他の作品を読んだ体験から
- ・自分が体験したことから

② 何について話し合うかを決める。

- ・同じような感想
- ・正反対の感想や、かなり違う感想
- ・ぎもんがあって解決したいこと

ぼくは、悲しい話だけど、「ごん」と「兵十」の心が最後に通い合ってよかったと思いました。「兵十」が火なわじゅうを取り落としたということは、「ごん」の気持ちが分かったからだと思います。

私は、二人の心が通い合ったとは思いません。たしかに「兵十」は、くりなどを持ってきていたのが「ごん」だとは分かったと思います。でも\_\_。

同じ作者の「手ぶくろを買いに」という物語を読んだことがあります。これも、きつねと人間が出てくる話なのですが、\_\_。

### 感じ方のちがいを知る

物語を読むとき、わたしたちは、登場人物のどれかと自分を重ね合わせたり、書いてあることを、自分の知っていることや経験と結び付けたりしながら読んでいます。だから、読み手が一人一人ちがうように、感じ方も十人十色なのです。

物語を読んだら、感じたことや考えたことについて、友達と交流しましょう。自分一人では気がつかなかったことを教えられ、物語の読み方が深くゆたかになります。また、友達や自分自身のものの見方・考え方を、あらためて知ることができます。

### 書く

どちらかを選んで、取り組みましょう。

- ・「6」の後で、「兵十」が「ごん」のことを「加助」に話すとしたら、どのような会話になるでしょうか。二人の会話を想像して、書きましょう。
- ・「ごん」になったつもりで、「1」から「5」の場面ごとに日記を書きましょう。出来事だけでなく、思ったことや考えたことも想像して書きましょう。

### 日記の例

今日、ひさしぶりにあなの外へ出た。川で兵十が魚をとっていて、いたずらをしていたら、見つかってしまった。ずっとあなにいたいくつだったから、ちょっといたずらをしただけなのに\_\_。兵十はこわいなあ。

### 言葉

○「ごんぎつね」の中で、場面の様子がよく分かる、目にうかぶようだと思う表現をノートに書き写しましょう。

- ・空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。
- ・人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。

○「ごんぎつね」には、「思う」と「考える」という、よく似た言葉が出てきます。どのように使い分けられているかを考えましょう。